

わ 私だけではこのまちは無い

まちづくりプランナーと建築家を比べるのもどうかと思うが、建築家は頑張った結果が建物として残るし、設計者として名前も残る。それに対してまちづくりプランナーは頑張った結果がなかなか目に見える形でとらえづらい。時には「○○さんたちがいなかったら、このまちも今のようになっただけだったね」と言われることもある。そう言われると正直嬉しいし、確かに私たちが関わらなければこのような成果は生まれなかったのではとちよつと自惚れぎみに思うこともある。だが、冷静に振り返るとそうとは言い切れない。

まちづくりの取組が一定の成果をあげるには、三年とか五年とか、場合によっては十年かかることもある。その間、様々な人たちがそれぞれの役割を果たしながら互いに関わり合うことで成果に結びつく。そのうちの誰かがいなくなつたらこうはならなかつたと思うことがほとんどだ。もしかしたら、私たちが直接知らない人が重要な役割を果たしていたかもしれない。まちづくりプランナーの役割としては「像と場としくみのデザイン」にあると考えているが、わたしたちが意思決定するわけでもなく、実行するわけでもない。あくまでサポーターであり伴走者なのだ。最近はずら実行するサムライみたいな人もいるが、私なんかは、ことが終われば静かに立ち去る立場と考えている。

だから、まちづくりプランナーになろうという人は、それで名を成そうと考えない方がよい。かえつて失望するだけだと思う。仮に頑張った結果、成果があがっても「私だけではこのまちは無い」と自戒する気持ちを持つた方がよい。様々な人と出会い、いろいろ刺激を受けながら互いに関わりあうことで成果が生まれるのだ。そのプロセスを共に出来たことを素直に喜びとして捉えたい。

そのような関わりをもつた方から、十年ぶりとかに連絡をもらうことがある。「あの時、みなさんとの出会いがあつたからこそ生まれた取組を、まだ続けているんですよ。十年ぶりに当時のことを振り返っていたら懐かしくて思わず電話をしてみました」なんて言われたりする。やつて良かったと思う瞬間だ。